

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772800076		
法人名	有限会社 豊		
事業所名	グループホーム 光風の家		
所在地	豊見城市宇高嶺299-1		
自己評価作成日	平成22年12月24日	評価結果市町村受理日	平成23年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でその人の能力に応じた生活動作(食事の下ごしらえ・洗濯ものたたみ・掃除・)などが、参加しやすい環境である。
 医療面では、主治医、受診病院は本人やご家族に選択していただくことができ継続的なケアの実施が行われている。
 基本的には受診はご家族対応ではあるが、受診困難な場合は職員が代行することも可能。又訪問診療を受けることにより定期的な健康管理、緊急時の対応なども円滑に行われている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojoho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4772800076&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小高い丘の静かな住宅街にあり、現在は、利用者の集まるリビングを広くしたいとの事で増改築中である。玄関前のブロック塀には馴染みのあるハイビスカスの写真の大きな2枚のパネルを飾り、その間にベンチを置き花が植えられ、明るい雰囲気を作る工夫をしている。日々の会話の中で利用者の思いを聞き、遠方出身のふるさと訪問や好きだった牛を見学に行く等外出の機会を多く取り入れている。地域の不登校生徒をボランティアとして受け入れ、地域との交流を大切にしている。介護相談員を受け入れ、利用者の声や気づき、アドバイスに前向きに対応し検討している。利用者の家族から譲ってもらった犬が事業所で飼われ、利用者や職員に癒しを与えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2-25-7 セントラルハイム南西303号室		
訪問調査日	平成23年2月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス移行後、創設者の理念を大切にしながら職員と共に運営理念を作成し毎朝の申し送りの時に職員で復唱し業務に取り掛かる様にしている。	創設者の経営理念では職員が理念を身近に感じられないとして、地域密着型サービスとしての意義や役割を踏まえて事業所独自に作っている。理念はリビングに掲示したり、業務日誌に記載し職員間で共有している。管理者、職員は「常に笑いのある生活」を大切に、地域に助けられながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人代表者が地域出身ともあり積極的に自治会に加入している。自治会の放送スピーカーを屋上に設置し協力体制に努めている。敬老会の準備や伝統エイサーの場所の提供などにも協力している。今年の敬老会は代表者・管理者職員で余興に参加した。	地域の行事に職員、利用者と一緒に参加している。事業所屋上にスピーカーを設置したことで近隣住民から「何を放送していたの？」等と事業所に訪れるので、自治会に確認して伝える中継的な場となっているが、さらに、地域とつながりながら当たり前に行けるようにと考えている。	事業所前の空気を事業所と地域と一緒に使って活用できる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校、中学校より職場体験や福祉体験などを受け入れることにより本人だけではなく父兄はもとより学校関係者にも認知症の人の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っている。ホームの現状(利用状況・健康状況・地域と交流など)サービスについての報告し意見や要望などを傾聴しアドバイスをもらうようにしている。	運営推進会議委員は、市担当者、地域、利用者、家族等で構成され、年6回開催している。会議では意見箱の活用について、委員より「設置場所を外にしては？」との意見もある。また、外部評価結果についても報告等を行っているが、今年度は利用者、家族は一度も参加していない。	運営推進会議が、地域密着型サービスとしての役割をはたすうえで、利用者、家族が参加し思いや意見の表出、地域との交流を継続する機会として活用できるよう取り組んでほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター等との協力関係により利用者の紹介や受け入れ後の相談をしている。	市担当者とは、運営推進会議で事業所の現状報告や意見交換をしている。管理者は更新・申請手続き時に、市の窓口に出向きパンフレットを配布している。市の担当者から「事業所を一時避難場所にしてほしい」との要望があったが具体的な話し合いには至っていない。	市担当者からの要望を糸口に、折りに触れ事業所の現状や取り組みを伝え協力関係が築けるよう期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外の門扉を含め玄関は開放し、自由に出入りできるようにしている。又、定例ミーティングの時間を使用し身体拘束についての勉強会などを行っている。	「身体拘束をしないケア」について、玄関の施錠も含め言葉の拘束等、管理者、職員は理解している。夜間にベットから転落事故が起り、家族から「心配なので柵をしてほしい」との要望があり、家族と話し合い、ベット横に鈴をつけたイスを置き対応することで家族の理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例ミーティングの場で普段行われているケアについてこれでいいのだろうか？と常に話し合いを持ち虐待が見過ごされていないかを話合っている。		

沖縄県(グループホーム 光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてはグループホーム連絡会の管理者会議やリーダー研修などで学ぶ機会を作っている。現在青年後見人制度を使用している方はないが、その準備段階の方は一人いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金や個人負担金についての内容は細かく表示し、説明している。質問があれば即座に対応できる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケートをご家族に配布することにより外部者へ表せる機会ができた。又介護相談員を受け入れる事で利用者の声なき声に耳を傾けてくれる相談員のきづきをアドバイスしてもらうことができた。ご家族には苦情相談窓口があることを話している。	利用者の思いは日々の会話の中で聞くようにしているが、家族から意見や要望は殆どなく、職員は訪問時に言葉かけを積極的に行い、話しやすい雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に現場の職員の意見に耳を傾けるようにしている。休日に関しては、事前に勤務希望表などを作成し、本人の希望がほぼ確実に取れるようしている。	職員の意見等はミーティング等で聞いている。事業所を離職した元職員の訪問が時々あるので、職員が長期の休みの時には「離職された方においては何？」との意見により実現につなげている。また、壁新聞作りや研修への参加等に手当をつける等、職員の要望に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	顧問の社会労務管理士により労働基準法などは管理されているが職員の実績等は賞与などに反映するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	救急法の研修などは1度だけではなく研修を重ねるよう努力している。認知所高齢者への接し方などは毎月の勤務表の空き枠をしようして常に意識してもらうよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じ、定期的に管理者会議が開催されている。その中勉強会や研修会などを開催している。		

沖縄県(グループホーム 光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	すぐにサービスを開始するのではなく事前調査をしたり、本人の状態を把握するため体験入所などをしてもらったりして本人の必要としている事は何かを把握しスムーズな関係づくりができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に緊急時の連絡も含め、病院受診、個人購入品の持ち込み等小さなこともご家族と話し合うようにしている。又、先を見越したケアとそれについてのご家族の思いなども伺いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	役所や包括とも協力、グループホームの入所は必要ならば協力し対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に感謝の気持ちと人生の先輩であることを意識した関係作りを行っている。会話の中にも「教えていただく。」という場面をつくり三信や詩吟、縫物など出来る方から教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と共に取り組んでいることなどの経過報告や写メを送信したりして、共に支えていく関係をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	つながりが途切れないよう面会の際にも職員がさりげなく間に入り話題のフォローに努めている。家族との外出なども協力している。	家族の協力のもと、馴染みの美容室に通い続ける利用者や、人生の節目に同級生や模合い仲間が訪問される利用者もいる。遠方出身の利用者のふるさと訪問を実施して、その様子を動画でリアルタイムに事業所に送ったり、家族にも送信している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の申し送りなどで関係などは把握している。利用者同士の関係には職員が瞬時に対応するようにしている。		

沖縄県(グループホーム 光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了したご家族とも面会やその後の相談をうけたり関係はとぎれることなく継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らしについては常に話題等にもあげ検討している。職員の視点だけではなく「介護相談員」の気づきなどにも耳を傾け利用者本位の希望・意向の実現に努めている。	センター方式を活用して、利用者、家族、関係者から情報を得て、思いや意向を把握している。家族のことを気にかける利用者を、家族の協力を得て毎夕電話で声を聞かせることで安心に繋げている。困難な場合は、利用者の表情や家族からの情報等を、職員間で話し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力と理解を得ながら生活歴などを把握している。プライバシーに触れる際は個人情報観点から気をつけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の暮らしの現状把握については常に職員間でも情報を共有していると思う。例えば内服に至る声掛け執行の方法や1日のうちでもどのタイミングで入浴や活動を行ったらいのかなど職員間で把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族協力機関のドクターや専門家の意見を介護計画に反映していると思う。	モニタリング、担当者会議は定期的に行い利用者、家族、職員間で話し合い計画を作成している。お手伝いを仕事として認識されている利用者の意向を計画に反映させ、出勤用のタイムカードも作成し活用している。家族の要望や利用者に変化が生じた場合は臨機応変に計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中でも勤務形態(日勤・夜勤)その他病院受診など色分けで反映しその情報を職員間で共有しながら実践や介護の計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の病院受診やご家族が対応困難ことに関しては出来る限り協力するようにしている。		

沖縄県(グループホーム 光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の図書館へ行くことで天気に左右されず本人の希望する書籍を借りることができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院は本人とご家族の希望を優先にしている。又、必要であるならば訪問診療をして適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医を家族受診を基本としているが、困難な場合は事業所に対応している。受診時は、希望するかかりつけ医及び他科受診全てに、日常の健康状態から当日の状態を詳細に担当看護師に連絡し、主治医に情報提供が速やかに届けられるよう連絡体制を整えている。膝痛や高齢等で外来受診が困難な場合は、訪問診療で点滴や痛み止め等の処置を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな情報や気づきは協力医療機関の担当看護師を通じ担当医へ報告、相談できるようになっている。専門的な検査を受ける時も待ち時間も配慮してもらい不穏な症状もなくするムーズに受診できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	治療計画書を把握しホームの居室確保などを病院関係者へ伝えているが機関よりオーバーしたとしても、治療終了後に安全に生活できるようなら、ご家族・病院ホーム担当と話し合いをし受け入れをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ホームでの身取りを希望されているご家族はいないが入院など医療機関などを利用した時などタイミングを見計らい段階を踏まえ説明するようにしている。	事業所の方針とする、医療的ケアを要する場合の対応や現体制でできる支援内容について家族に説明し理解を得ている。利用者の緩やかな状態の変化時には、家族と繰り返し話し合いを持ち、事業所として最大限できる支援を心がけている。現在看取りケアは行っていないが、利用者が事業所で安心して暮らせるよう医療との連携に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て応急手当や蘇生術の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者と法人代表者が中心となり防災訓練をする。消防職員立会のもと地域の方にも協力と理解をしていただき防災訓練をすることができた。その際の反省や課題を今後の訓練に活かしていきたい。	防火訓練では、初期消火の実践を、職員が消火栓を使用して行っている。避難訓練には近所の人やボランティアにも参加してもらい、非常時の手順や避難場所での支援方法等を共有し確認している。職員は、昼と夜の違い、避難場所の確保、動きの優先順位、避難後の利用者の安全確保等机上学習では学べない事を実地訓練を通し身につけている。	

沖縄県(グループホーム 光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りの際にも固有名詞の使用を行わず別の方法で行ったり、排泄管理票の記入も○△□などの表現で定着している。常に人生の先輩である事を意識し会話をするようにしている。	職員は利用者に対し、丁寧な言葉遣いを心がけている。親しみの中にあっても緊張感を忘れず、つい気軽な言葉を使うことをお互いに注意し合っている。事業所の方針として、どんな状態でも、利用者の言葉と人格を尊重し、職員は顔を見て話を聞き、言葉を選んで会話を実行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えや食事のメニューなど生活の場面において選択して決定していただく場面をさりげなくつづけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突然の外出にも対応できるようにしている。会話や表情などで今何を求めているのかを感じ取り求める場面に近づけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝のモーニングケアで鏡を一緒に見ながら髪を整えてもらったり、外出の際には着て行く服のコーディネートしてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分が職員であると認識している方へは負担のないよう当番制にして洗いものをお願いしている。又、車椅子の方でも座ってできるお膳拭きやおしぼりたたみなどをお願いしている。	台所はリビングの隣りに在り、食事ができ上がるまでの刻み音や水の音、料理の匂いが部屋中に漂う。世話好きな利用者が食事介護を要する利用者に対しお世話する光景や、個食を好む利用者はテーブルを離す等の配慮をしている。優しいBGMをかけて利用者職員は味わいながらゆっくり食事を摂っている。	食事づくりは一番の家庭的行為であり、其の人らしさが引き出せるチャンスであり、調理は身についた経験記憶でもある。元気な利用者は実際に台所に立ち、調理者と共に作業を進めるとか、座っている利用者が出来ることをみつけるとか、それぞれの身体条件の中で、利用者の力が少しでも多く出せるような工夫を考えてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取管理表に記入することで一目で解るようにしている。本人の希望と健康状態によりコーヒー紅茶 しょうが湯 ココア等を提供している又食事摂取が少ない方は担当医と相談しエンシュアリキッド(高カロリードリンク)を飲取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。又訪問歯科の医師とも相談しながら口腔内の状態を把握している。		

沖縄県(グループホーム 光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室をトイレの近くに移動することにより夜間もポータブルではなくトイレで排泄をすることができる。明け方排便が多かった方の便秘薬の時間を変更したところ離症後になり本人も朝のゆっくりした時間を過ごす事ができると喜んでいる。	毎日の排せつチェックをきめ細かく10パターンに分けて図式表示で記録し、自立に向けた支援をしている。排せつ失敗の場合には、羞恥心に配慮して、「髭剃り」とか本人の興味あるものに関連づけて風呂場に誘導し、また実際に髭剃りも行い、さりげなくリビングに戻ってもらう等の対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを召しあがってもらっている。水分補給と、豆製品なども献立に取り入れている。それでも便秘する方は医師と相談し下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には1日越しの入浴。だが希望や必要とあれば毎日入浴でも対応できる。	利用者に楽しく入浴してもらう為にも、その日の希望にそって支援している。浴室では利用者の好きな音楽をテープで流したり、脱衣場も温かくして、同性介護や職員との相性等も配慮し支援している。入浴を拒否する場合はその気持ちを理解し、無理強いせず時間をずらして誘う等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活パターンを把握して、夜間自然に入眠につながるよう日中に活動を促している。就寝の時間をきびしくせずテレビを見たり、眠れない方とはできるかぎり話相手になって昔話をしたりして自然に入眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医師により処方。ホームの様子を把握をしている近所の薬局の薬剤師から薬の説明を受けている。内服の方法を事前にカードに記入し休み明けの職員でも間違えないよう周知している。又薬に関して疑問が生じたら病院と薬局と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が発する日常の会話や家族の情報、介護記録、定例ミーティング等でのアセスメントの中から役割や楽しみことを見出している。ドライブや、レク活動、買い物など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブは、頻繁に参加できる環境である。又遠方の家族のもとへ訪れる計画をし今帰仁まで実現した。	近所の桜を見に行ったり、帰宅願望のある利用者には散歩をして落ち着いてもらう等日常的に外出を支援している。また、雨の日は図書館を利用し知的場所にも親しむ等、雰囲気や活字等の支援も行っている。また、夜に不穏状態が見られる利用者に対しては、夜のドライブに出かけて落ち着いてもらう等の配慮もしている。	

沖縄県(グループホーム 光風の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているが、以前本人にお金を所持していただいたことがあるが、「お金がなくなっている」という「もの取られ妄想」が出現した為家族と相談し、お金の所持は中断している。他によい支援方法がないか検討中である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の都合等を常日頃から聞き負担にならないよう支援している。会話のフォローを職員がフォローし遠方(ブラジル)からの電話を受けられる事が出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	足音への配慮や、物を落とした時など大きな音を出してしまった時には、驚かすつもりと一言添える姿勢を大事にしている。	玄関先にはベンチを置き花が植えられ、リビングには雑飾りもあって内外ともに季節感がある。リビングでは大きな音や大声で飛び交う会話等は殆ど無く、静かな音楽を流し、また、テレビ時間を少なくしてレクリエーションを活発に行っている。共用空間の一角の手摺を利用して、車イスからの立ち上がり訓練が楽しくできるような好みのスターの写真を貼る等の工夫も凝らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファーに腰掛けて静かにテレビを見たり、気のあう方のお部屋でおしゃべりをしたり昼寝をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具類など、より家庭に近い雰囲気を出す為持ち込みをお願いしている方もいるが家具類に関しては本人の希望に合わせて持ち込み可能。火の神をもってきている女性利用者もいる。	居室は、利用者の希望を受け入れ個性的な空間となっている。コーヒーマーカーを置いて仲間にコーヒーマシンを振舞ったり、ドアの左右にシーサーを置いたり、神棚や、三線等を持ち込み自由に部屋づくりを楽しんでいる。利用者同士の仲も良く、布団を持ち込んでフレンドリーなお隣り宿泊も展開されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりのカレンダーをめぐってもらえるよう目線の位置に置いたりしている。又、洗濯ものなども干したり、取り込んだりしてもらえやすい環境である。		